

2021年10月31日

第9回 全国外大連携プログラム

通訳ボランティア 育成セミナー

～国際イベント・スポーツ大会に向けて必要な
「教養」「スキル」を学ぼう～

報告書

主催

全国外大連合

開催日程

2021年9月8日(水)～10日(金)

開催場所

オンライン開催(神田外語大学より配信)

目次

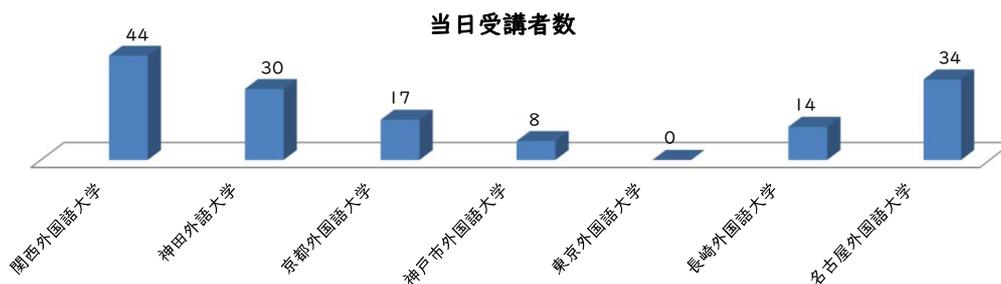
1. セミナー概要	・・・p.3
1-1 大学別の事前申込者数と受講者数	
1-2 学年別受講者数	
1-3 対応可能言語	
1-4 第1回～第9回までの受講者数推移	
1-5 大学別の人材バンク登録者数	
2. 学生の参加動機	・・・p. 5
2-1 参加目的	
2-2 参加へのきっかけ	
3. 参加後の自己評価	・・・p. 6
アンケートによる集計	
4. 各講義内容について	・・・p. 8
講義名	
講師名	
参加者課題『講義レポート』より	
5. セミナーの様子(写真)	・・・p. 21

1. セミナー概要

1-1 大学別の仮申込者数と受講者数

単位:人

大学名	募集枠 (英語)	当日受講者数	バンク登録者数
関西外国語大学	150 (当初の定員)	44	31
神田外語大学		30	20
京都外国語大学		17	11
神戸市外国語大学		8	6
東京外国語大学		0	0
長崎外国語大学		14	9
名古屋外国語大学		34	26
合計	150	147	103

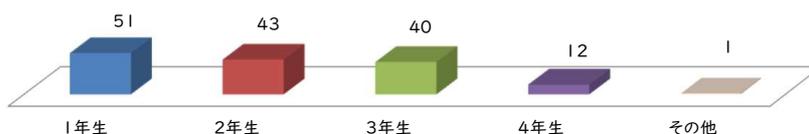


単位:人

1-2 学年別受講者数

大学名	1年生	2年生	3年生	4年生	その他	大学別計
関西外国語大学	11	12	15	6	0	44
神田外語大学	14	10	5	1	0	30
京都外国語大学	4	6	6	0	1	17
神戸市外国語大学	2	4	2	0	0	8
東京外国語大学	0	0	0	0	0	0
長崎外国語大学	9	0	4	1	0	14
名古屋外国語大学	11	11	8	4	0	34
学年別計	51	43	40	12	1	147

学年別受講者数

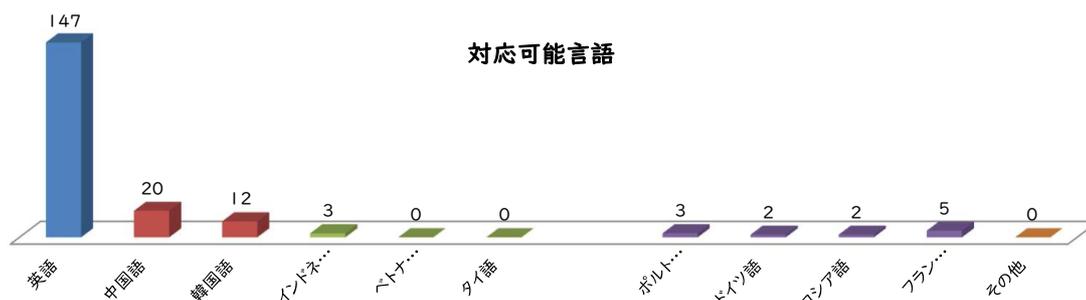


1-3 対応可能言語

単位:人

英語	中国語	韓国語	インドネシア語	ベトナム語	タイ語
147	20	12	3	0	0
スペイン語	ポルトガル語	ドイツ語	ロシア語	フランス語	その他
15	3	2	2	5	0

※受講者の対応可能言語内訳を示す。



1-4 第1回～第9回までの受講者数推移

単位:人

大学名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	各大学 総受講者数
関西外国語大学	27	24	29	46	34	24	28	84	44	340
神田外語大学	119	120	220	17	221	324	121	97	30	1269
京都外国語大学	27	21	54	60	55	24	36	27	17	321
神戸市外国語大学	9	4	5	8	0	3	3	20	8	60
東京外国語大学	6	1	0	0	4	0	0	0	0	11
長崎外国語大学	21	13	29	11	22	26	9	11	14	156
名古屋外国語大学	27	14	30	36	20	23	10	45	34	239
回毎の受講者数	236	197	367	178	356	424	207	284	147	2396
受講者数推移(延べ数)	236	433	800	978	1334	1758	1965	2249	2396	

1-5 大学別の人材バンク登録者数(第1～9回開催分総計)

単位:人

大学名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	各大学 総登録者数
関西外国語大学	27	24	29	39	33	22	22	72	31	299
神田外語大学	106	111	204	4	159	281	90	80	21	1056
京都外国語大学	27	21	53	47	49	23	25	25	11	281
神戸市外国語大学	9	4	5	6	0	3	3	18	6	54
東京外国語大学	4	1	0	0	4	0	0	0	0	9
長崎外国語大学	20	13	25	6	18	25	6	6	9	128
名古屋外国語大学	26	14	30	24	19	23	10	41	25	212
回毎の登録者数	219	188	346	126	282	377	156	242	103	2039
登録者数推移(延べ数)	219	407	753	879	1161	1538	1694	1936	2039	

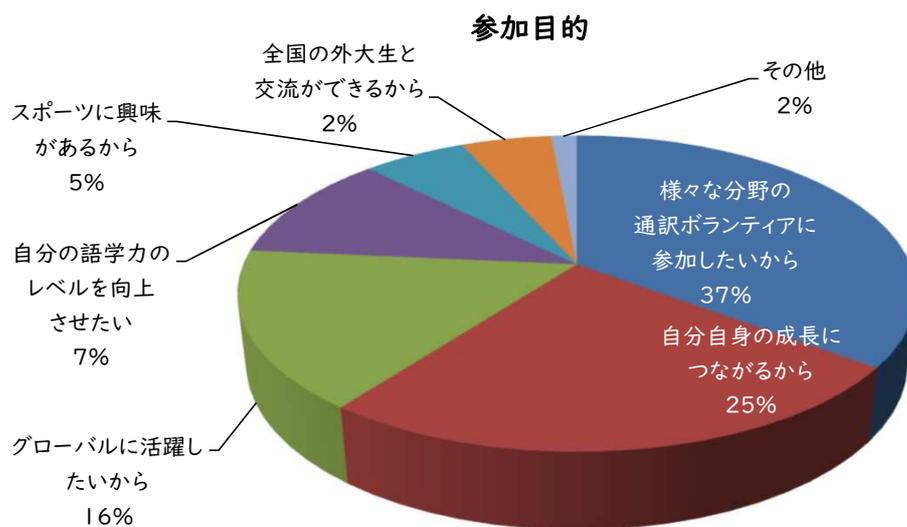
2. 学生の参加動機

2-1 参加目的

単位:人

参加目的	回答数
様々な分野の通訳ボランティアに参加したいから	48
自分自身の成長につながるから	34
グローバルに活躍したいから	22
自分の語学力のレベルを向上させたい	15
スポーツに興味があるから	8
全国の外大生と交流ができるから	7
その他	2

回答者数:136人

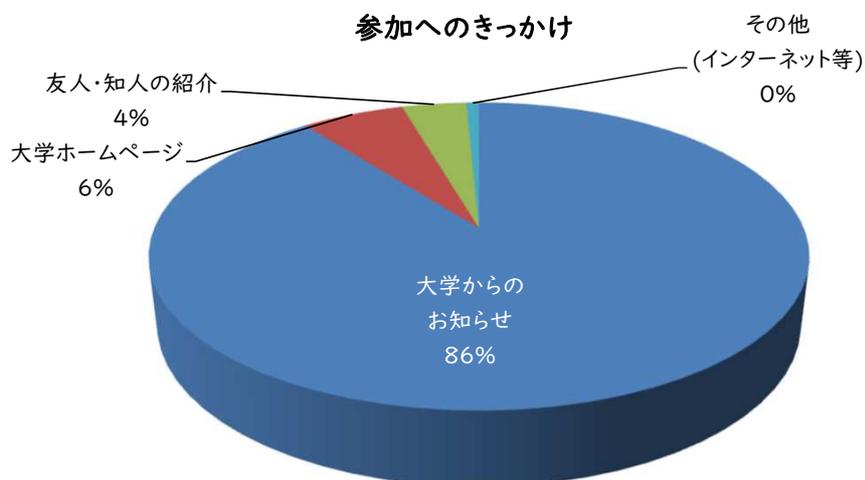


2-2 参加へのきっかけ

単位:人

参加へのきっかけ	回答数
大学からのお知らせ	119
大学ホームページ	8
友人・知人の紹介	5
新聞記事	0
その他(インターネット等)	1

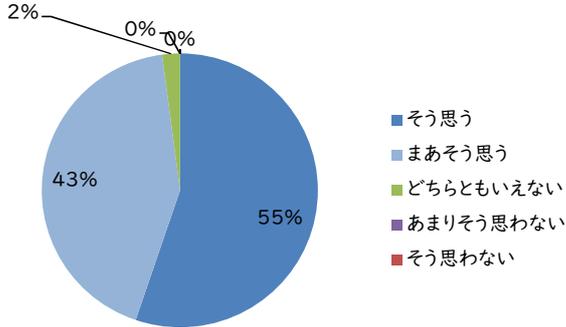
回答者数:133人



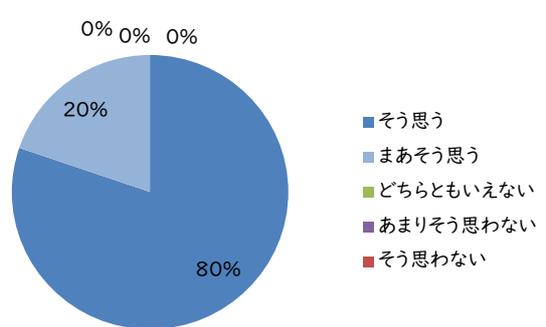
3. 参加後の自己評価 — アンケートによる集計 (単位:人)

回答者数: 96人

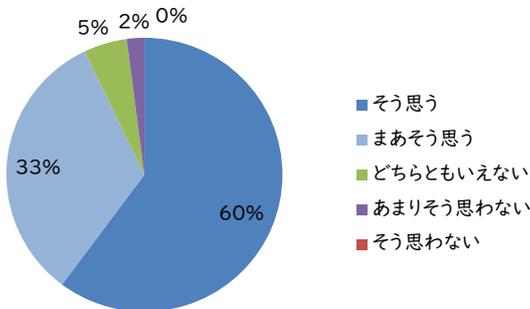
1. セミナーを受講してグローバル人材とは何か
そのために何をすべきかが明確になった



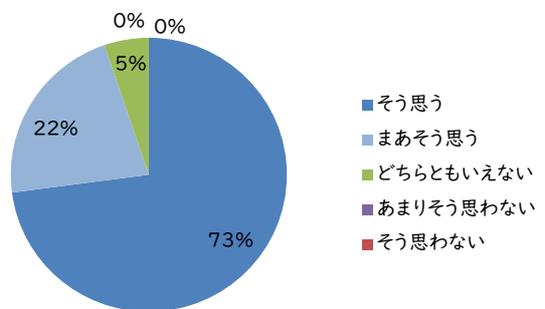
2. 語学力とコミュニケーション力の
必要性について学ぶことができた



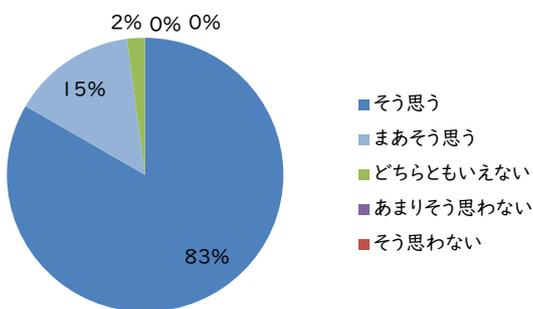
3. スポーツを取り巻く多様な分野や
専門知識の理解が深まった



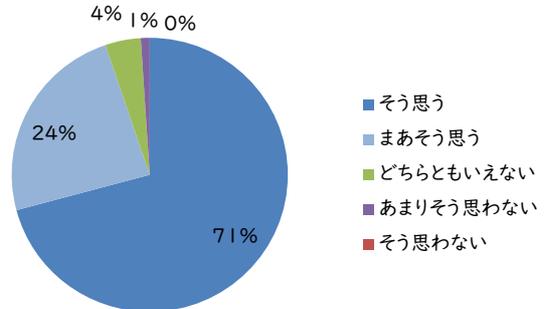
4. 参加する前より語学を学ぶ意義と
学習意欲が高まった



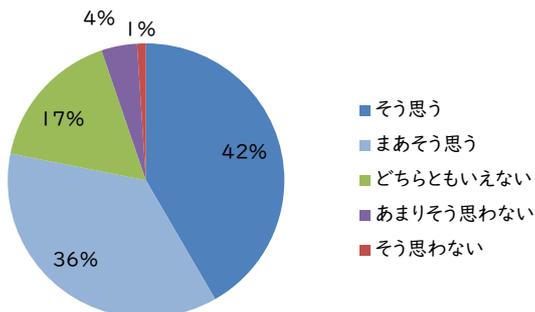
5. 今後、通訳ボランティア実践や様々な活動に今より
積極的にチャレンジしてみたい



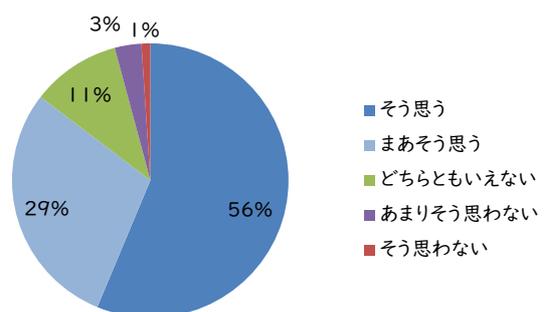
6. 受講前よりスポーツを通じて
異文化・国際交流に興味を湧いた



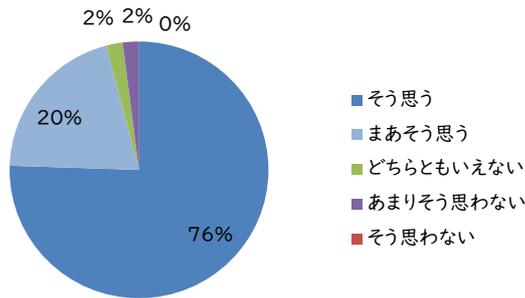
7. 日本人としてのアイデンティティについて考えるよ
うになった



8. 自分の興味・関心がある分野に気づき、
新たな自分を発見した



9. このセミナーを受講して満足している



10. 『このセミナーを通してのご感想やご要望、ご質問、運営についてお気づきの点等ご記入ください。』への回答内容

回答内容	回答件数
有意義な3日間だった、楽しく学べた、貴重な時間、満足	27
普段関わることのない方の講義や経験ができた	14
新たな気づきがあった、刺激があった、視野が広がった	12
ボランティアに興味、意欲がわいた、モチベーションが上がった	8
語学のモチベーションが上がった	7
学生生活、キャリアなど今後活かしたい	6
次回は対面、実地開催してほしい	4
通訳ボランティアに参加したい、グローバルに活躍できるよう努めたい	4
ブレイクアウトセッションがもっとほしい	4
実践・実用的な講義や通訳の実践演習等ほしい	3
将来について考える良い機会となった	3
様々な外大生との交流が深まった	1
アイデンティティについて考える機会となった	1
オンラインによるセミナーが良かった、オンラインにより参加しやすかった	1
また通訳ボランティア育成セミナーに参加したい	1
他大学の学生ともっと交流したい	1

※上記「回答内容」に当てはまる回答を「回答件数」としてカウント。

回答件数合計：97件

※『このセミナーを通してのご感想やご要望、ご質問、運営についてお気づきの点等ご記入ください。』への回答を上記項目に集約。

11. 受講生のまとめレポートハイライト

- ▶ 今まで全く経験のない分野だったが、自分の中で少し通訳ボランティアというものに対してのイメージができるようになった。
- ▶ 先生講師からだけでなく、他大学の学生との交流でレベルの差を実感し刺激を受けた。
- ▶ 初めはあまり興味が湧かないものでも実際に話を聞くと興味が湧いてきてとても充実した3日間だったと感じました。
- ▶ セミナーを通してボランティアとして誰かの為になりたいと思う気持ちが強くなりました。
- ▶ 自身の語学力を用いることで、自分が学習していない分野でも興味に繋げ、挑戦できるんだということを知る良いきっかけとなりました。
- ▶ 通訳ボランティアのための知識以外にも未来を見据えた授業がありとても為になりました。

12. 今後の展望について

- ▶ セミナーに参加して、自分の視野が海外にも広がり、小さな範囲ではなく、広く挑戦してみたいと感じることができました。
- ▶ 今回のセミナーを通して、どの様に世界と関わっていきたいのか明確な夢を探してみたいと強く思いました。
- ▶ 3日間感じたことを忘れないように、今後私なりに私の語学力を活かせたらなと思います。
- ▶ スポーツ、医療、通訳学習など通訳に関係ある事柄を学べて本場でその学びを使っていきたいと考えています。
- ▶ こんな風にグローバルに活躍できるのかという驚きがたくさんあり、語学を学ぶ者としてもっともっと成長したいと思いました。
- ▶ 自分が本当に挑戦してみたいことに気付くことができたと思います。国際ボランティアに是非参加してみたいと思いました。
- ▶ 日本語から英語に素早く訳すことが難しいとわかったので、これからは日本語から英語にスラスラと訳せられるように練習していきたい
- ▶ また大学が始まったら、同じ大学に人に学んだ事を共有したいと思った。
- ▶ 講義をきっかけに医療面での仕事に興味を持つことができた。
- ▶ 国際ボランティアに是非参加してみたいと思いました。本当に参加して良かったです！！

4. 各講義内容について

9/8(水)	ワールドマスターズゲームについて	
講演者	公益財団法人ワールドマスターズゲーム2021 関西組織委員会事務局長 木下 博夫	大会部ボランティア課長 内藤 伸悟

参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆このセミナーに参加するまで、ワールドマスターズゲームについて全く知りませんでした。今回紹介を受けてぜひボランティアとして参加したいと思うことができました。また、スポーツを通じた出会いや世界中の人々のスポーツに対する熱い思いを実感できました。(関西外国語大学・3年生)
- ◆ワールドマスターズゲームズが存在を初めて知るきっかけとなった。オリンピック、パラリンピックなどの大会とは異なる点として、選手の方々と大会に携わる人の距離が近く、交流がさかんにできる印象を受けた。日本で行われる大きな大会の為、日本人ボランティアの1人としてぜひ大会に携わりたいと考えた。(神田外国語大学・1年生)
- ◆ワールドマスターズゲームズは名前すらも聞いたことがなかったが、世界中の人とスポーツを楽しむという理念が本当に素敵だなと思った。居住地で開催されるので通訳ボランティアとしての参加を少し考えていたがこの講義をきっかけに参加を決意した。(神戸市外国語大学・2年生)
- ◆ワールドマスターズゲームズという国際的な大会が4年ごとに開催されていることは知らなかったし、来年関西圏で開催されることも知らなかった。新しい情報を得る良い機会だったと思う。関西の様々な都府県で競技が行われるそうなので、スケジュールが合えばぜひ通訳ボランティアとして参加してみたいと思った。(京都外国語大学・2年生)
- ◆関西で世界規模のスポーツ大会が開かれるとは知らなかった。今回の案内を知ることができて良かったです。一日からでも参加することが出来るということも知り、授業の予定と合わせながら参加できるな、とますます参加したくなりました。今はコロナ禍であるので、中々海外からの参加が難しいと思いますが、開催されたときには、自信をもってお手伝いできるように、頑張ろうと思います。(関西外国語大学・2年生)
- ◆来年のWMGはアジア初開催の大会となり関西圏の様々な県の会場で行われる。スポーツで競い合う大会というよりは多くの方がスポーツを楽しむ事が目的である。こういったスポーツイベントには開催地の観光業の盛り上がりにもつながり、自国やそのエリアの文化発信を世界にできる機会でもある。ボランティアは一日から参加可能とのことなので、都合が許せば参加も積極的に考えたいと思った。(名古屋外国語大学・4年生)
- ◆今まで正直、ワールドマスターズゲームについて、名前を聞いたことがある、という程度の認識でした。しかし、動画で実際に紹介され、様々な国や地域から来られた人々が、そして誰もが参加出来る世界的スポーツ祭典である、という事を聞き、非常に興味を持つきっかけとなりました。ボランティア活動など、興味はあるけど、敷居が高いように感じていました。しかしこのように、同じ趣味を共有する人々と触れあう機会は非常に大事に思い、来年、ボランティアとして参加しようと思いました。(神戸市外国語大学・2年生)
- ◆この大会について私は講義で初めて知りました。オリンピックとは違い、スポーツが好きな人が集まって競技を行うスポーツであることを知り、競技者としてもボランティアとしても参加したくなりました。来年、関西で行われるので通訳ボランティアとして応募したいです。また、今私は、大学でスペイン語を専攻しているのでそれをこの大会に参加し、実践力を身に付けて留学にも生かしていきたいです。(関西外国語大学・2年生)

9/8(水)	五輪・パラリンピックが残したレガシー
講師	筑波大学 特命教授教授 神田外語大学 ボランティアセンター客員教授 真田 久

参加者課題『講義レポート』より ※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆この講義では、オリパラの歴史を学ぶことができた。特に印象に残ったものとして、オリンピックが戦争と疫病からの復興を願い、開催されたというのがとても驚きだった。ただ単にスポーツの勝ち負けを競うために始まったと思っていたから新しい発見だった。またパラリンピックで「失われたものをかぞえるな、残されたものを最大限に生かせ」という言葉は、パラリンピックに参加したいという気持ちの向上にもなっているのではと感じた。そして今年のオリンピックではTogetherが追加されたことを知り、これからはより活発な国際協調の時代になるのではないかと感じた。(神田外語大学・1年生)
- ◆オリンピックとパラリンピックの起源がどちらも戦争からの復興であったことが印象に残った。最初の第一回東京オリンピックの際も、敗戦国である日本の選手が金メダルを取ることで日本人としての誇りを取り戻したきっかけになったと思うし、そういう意味では我々日本人にとっても戦争からの復興と深く結びついているのではないかと思います。(神戸市外国語大学・2年生)
- ◆知識と知恵の違いとして、知識は知っていること、知恵は適切に知っていることを活かす力ということを知った。語学力をボランティアで活かすことで知恵を得られると考えた。私の軸としてプロセス(過程)を大事にしているので、朴先生のプロセスを大切にすることが教育には必要なのではないかという言及に同感した。(関西外国語大学・3年生)
- ◆日本の厳しいコロナ対策の中で行われる東京2020オリンピックは、顔のない東京オリンピック、華やかさ、盛り上がりには欠けるオリンピックだと懸念されていた。しかし実際オリンピックが始まると、ボランティアの人たちや子供たちの笑顔と温かさで選手の人に歓迎の気持ちを伝えることができ、開催へ感謝を述べる人々がいたことで、東京2020オリンピックのモットーである「1つになろう」を見事成し遂げたといえるだろう。このことからボランティアの存在、影響の大きさ、重要性を知ることができた。また、コロナ下でオリンピックを行うということに、「コロナで分断された国や地域」が連帯、多様性に挑戦するということに意味、意義があるものとして、2020東京オリンピックはオリンピック理念の確認になったといえるだろう。(名古屋外国語大学・3年生)
- ◆真田さんの講義を聞いて、古代オリンピックの起源が、戦争と疫病からの復興で、現代のコロナウイルスのパンデミックと重なるところがあることにとても驚いたし、またその節目でもあるオリンピックパラリンピックが東京で行われたことにとても重要性を感じられました。この大会で追加されたTogetherというモットーはこの東京オリンピックパラリンピックでは色んな競技で見られたなと思います。(関西外国語大学・2年生)
- ◆私は今年のオリンピックでは日本人のおもてなしの心がよく表れていた大会であったなと思いました。さらに今までとは競技の数も増え、LGBTQを公表をする人が最も多かったというレガシーを残したことはとても良いレガシーであるなと思いました。LGBTQを公表する人が増えたことは理解してくれる人も増えたからではないかなと考えました。(名古屋外国語大学・2年生)
- ◆この講義ではテーマの通り、五輪・パラリンピックの歴史をとっても詳しく学ぶことができ、五輪・パラリンピックへ向ける自分の価値観が変化したと感じた。この大会は平和を望んで開催されていることは知っていたが、スポーツと平和の関連性は曖昧であると感じていた。しかし、災いから逃れるための神の言葉や、フランスが国を立て直す際に英国のスポーツ教育に可能性を見出したという起源を学び、はっきりした関連性を知ることができた。また、パラリンピック開催のきっかけを生み出したグッドマン医師の「失われたものを数えるな 残されたものを最大限活かせ」という言葉から、どんなコンプレックスがあれど個性として自分を受け入れ、強くなる努力をすることで全ての人が主役になれるチャンスがあるのだという希望を感じられとても印象的で合った。(神田外語大学・1年生)

9/8(水)	リペラルアツーツとしてペリーツとしての21世紀のスポーツとは
講師	神田外語大学 スポーツセンター准教授、ボランティアセンター副センター長 朴 ジョンヨン

参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆「自分が本当にやりたいことは？」と先生がおっしゃっていて、自分に言われたようでハッとしました。このセミナーが行われたと同時期に大学の履修登録があり、自分の興味がある教科より単位数を気にして履修していたので、朴先生の講義を受講出来て考え方や自分の将来について改めて見つめ直すことが出来ました。また、「コロナだから出来ない」ではなく「コロナでもこうすれば出来る」と変化に柔軟に対応してより良い人生を送りたいと思いました。(関西外国語大学・3年生)

◆特に2つ印象に残ったことがあります。1つ目は自分のやりたい事や夢は、いい大学に行くことやいい職業に就くことではなく、まず自分をしっかり知ることが大切だということです。私は3年でもうすぐ本格的に就活が始まるので、自分は何が好きなのかとか何がやりたいのかというのを自分がよく理解しないといけないなと思い、とても心に響きました。2つ目はプラトンのアイデア論から、自分の生きてきた世界にはあまり自由がないけれど外を見るともっと広くグローバルな世界があるということです。私も何度か海外に行った時に私の考え方とか見ている景色は本当に小さいものだったことがあるのでとても共感しました。将来1度は海外で働きたいと思っていますが、心のどこかで不安があり行動しきれない部分があったのですが、この言葉で行動する決心がつけました。これから留学や就活など様々なことを予定しているので、自分の将来充実したものになるように、変化を作り出せる人になりたいと思いました。(長崎外国語大学・3年生)

◆この授業で印象深かったのは、「知恵」と「知識」の違いです。「知識」は、ただ物事を知っていることであり、「知恵」は知っているだけでなく、理解したことを適切に生かす力ということが分かりました。日本は、成績重視の社会ではありますが、それまでの過程をも大事にしなきゃいけないと改めて分かりました。(名古屋外国語大学・2年生)

◆このセミナーで学んだ、教養とは自分を知ることであり知識ではなく知恵であるという言葉聞いて、確かにそうだなと感じました。大学生になってより教養という言葉聞くようになり、3年間たくさんの教養科目を履修してきました。その中に面白いと思う授業もあれば、正直つまらないとかこの講義の意味とはと考えてしまう講義もあったが、今まで受講してきた教養科目の講義で学んだことを学んだところで終わらせてしまうとそれこそ私は何のために大学で教養科目を学んでいるのかという疑問が生まれてしまうと考えました。たくさん受講してきて身につけた講義内容をどのように私の人生で活用していくかということまで発展させて考え、考えて出たことを行動しようと思いました。現代社会で生きていくうえで何かしらの組織に所属して他者と関わることが年齢を重ねるたびに増えていくので協調性など大切だけど、他者と適切な関係を築く根底には私はどのようにしたいのかという私が主人公でないといけないと思いました。苦しいときもあるけれど自分自身と向き合うことをいつまでも忘れずにいたいと思いました。(長崎外国語大学・3年生)

◆朴さんの話の中で私は教育と自由について興味がありました。受験のような形で与えられたものを学ぶということがありました。高校生までは本当にそうで、決められたものをしっかり学ぶ形でした。それが当たり前でそういう世の中になってしまっているのが普通だと言う考えの人がほとんどなのかも知れませんが、わたしはそのような考えは嫌だなと思いました。義務教育の間しっかり勉強して、偏差値の高い大学に進学しても落ちて違う大学に進学しても、結局は大学で自分がどれだけ頑張るかだと自分も受験に落ちた身なのでとても思いました。(長崎外国語大学・3年生)

◆スポーツはかつて、奴隷の人が仕事から解放するために行っていた。奴隷の人々は、運動をする時間という、日々の過酷な労働から放たれたほんのひと時もかもしれない時間が幸せであったと考える。このように、幸福は、自分が面白いと感じれるか、没頭することが出来るか、意味があるものなのかといった要素から自分で選択することが出来る。よって、自分を幸せに出来るのか自分次第であるということを感じた。(神田外語大学・2年生)

9/8(水)	異文化理解、世界の食事規定を知ることからはじめよう
講師	神田外語大学 キャリア教育センター特任教授 吉田晴美

参加者課題『講義レポート』より ※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆吉田先生がおっしゃった、「食材や調味料、製造工程を（多言語で）明らかにすることが重要です。」というお言葉が印象的で、そこから、食事に限らず、医療、福祉、教育、災害、観光など、様々な分野で海外の方が安心して生活できる環境が整うように心がけられるとより異文化理解が深まると考えました。(名古屋外国語大学・2年生)
- ◆少しずつ特徴が違うDietary requirementsを学んで混乱しそうになったが、ヴィーガンに合わせておけば間違いはないこと、“What is your dietary requirements?”という万能なセリフを教えていただいたことで、心理的なハードルが下がった。宗教のほかにも、アレルギー等の理由で各々がdietary requirementsを持っているはずであるので、異文化の人と交流するときに限らず、常日頃から心にとめておきたいトピックだった。(神戸外国語大学・1年生)
- ◆異文化理解の観点の一つとして、世界の食事規定が、我々が想像している、もしくは決めつけているようなものとは限らない、ということがよくわかりました。知識としてわかってはいても、それが実際にその規定に従われている方々にとって必ずしも、そしてそのすべての方々に当てはまるものではないということもよくわかりました。What are your dietary restricts?という、魔法の質問も知ることができ、大変興味深い講義でした。(名古屋外国語大学・3年生)
- ◆様々な信仰や健康上の理由から食べられるものに規定があることは知っていたが、ヴィーガンの条件に合わせた食事は、それらの規定を全て網羅しているということは知らず、目から鱗がこぼれた。また食とおもてなしの結びつきが強い、というお話の中で、あくまでおもてなしをする側は選択肢を示すだけで、それを選ぶかどうかはお客様自身、という言葉が印象に残った。おもてなしの心は重要だが、それが押しつけになってしまっていないか、客観的におもてなしを見ることも大事なのだと感じた。(神田外語大学・1年生)
- ◆外大で学んでいるということもあり、他の国の食事のルールや菜食主義にかんしてそれなりに知識があると思っていたが、全くそんなことはないのだと実感した。最後に吉田先生がおっしゃっていた日本の精進料理がハラール、コーシャー、ベジタリアン、ヴィーガンのどれも兼ね備えているというお話を聞いて、世界の食事規定を知りながら日本に帰帰するとか、日本について知ることが世界を知ることにつながっているような気がした。(名古屋外国語大学・2年生)
- ◆最近 Dietary Requirement について興味があったので、この授業をワクワクしながら受けました。私は今まで宗教や信条を考えて食事をしたことがありません。しかし、世界には何億もの人が食事に規定があります。今まで世界を見て周りたかったと思っていましたが、まずこういったところの理解をしてから出ないと、現地の人に迷惑をかけてしまうかもしれないと思いました。宗教の観点からだとイスラム教はハラール（豚肉・アルコール禁忌）、ヒンズー教はベジタリアン（乳製品可）、仏教徒は菜食主義・ヴィーガン、ユダヤ教はコーシャー、ジャイナ教はベジタリアン（根菜禁止）です。信条の観点からだと動物愛護の人はヴィーガン、健康や平和主義の人はマクロビです。この授業で初めて聞いた言葉も多かったし、食べてはいけない理由がしっかりあることも知ることができました。吉田晴美先生が体験した女性のトイレでのお話は聞いて良い経験になりました。(神田外語大学・1年生)
- ◆食事規制という言葉を知り初めて聞いて、宗教による食事の制限かと講義がはじまったときに思ってしまったがまだまだ知らないものがたくさんあり、大変勉強になりました。以前学校の授業で学んだはずのヒンドゥー教の食事規制など案外忘れていたりしていたので考え直すいいきっかけになりました。ジャイナ教については知らなかったので禁欲を理由にニンニクを食べないのにとっても驚きました。(関西外国語大学・2年生)

9/8(水)	ラグビーWC2019大会が日本に残したレガシーとは
講師	神田外語大学 ボランティアセンター客員教授 徳増浩司

参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆自分の親族にラグビーをプレーしている人がいるが、ラグビーワールドカップに関しては全く知識がなく、開催されたことだけは覚えていた。レガシーという単語がただ単に目に見えるスタジアムだけではなく、人の心にも残っていくものなのだと理解し、感動した。スポーツは言葉の垣根を超えると自分の中では思っているが、世界的な大会は、国を超えて人の心に残るのだと感じた。(神田外語大学・3年生)

◆レガシーとは大会の前から、大会に向けての"Before"があり、大会開催中の"During"があり、その後続いていく大会後の"After"があるということを知りました。また、国際競技大会は、招致活動から始まり、大会の準備と開催があり、大会後の活動もあり、非常に長期にわたって続いていくものであると学びました。一つのスポーツ大会には多くの人の様々な思いが詰まっていることを感じました。そして、レガシーという言葉の広さを感じました。ポジティブな影響や変化を与えることができたらそれはレガシーと考えるというのは、まさにスポーツ大会の重要な役割を示しているように感じました。また、「できないところからの過程を楽しむ」という言葉がとても印象に残りました。できないことはしょうがない、そこからどうやってできるようになるか、そのことを楽しむことで、困難に立ち向かうことや、挑戦することが楽しくなると感じました。(名古屋外国語大学・4年生)

◆ラグビーW杯で南アフリカに勝利して以来知名度がましたラグビー日本代表チーム。そして直近の大会は自国開催となりより一層の注目を浴びました。人と人の繋がりが薄まっている傾向やチーム内に外国出身の選手が多いことによる世間からの批判がありましたが、チームの合言葉であるONE TEAMと彼らの活躍と共に日本中が一致団結した点はこれからのグローバル社会において非常に重要な役割を果たしたのではないかと考えます。(神田外語大学・3年生)

◆この授業を受けた際にレガシーが3つもあることに驚いた。そして、最初のbeforeだけでも大会招致活動、大会の活用、アジアラグビー、地方自治体、教育機関などの多くの活動が携わっており大会は多くの人の努力によって成り立っているのだと思った。そして、招致活動だけでも6年かかり、大会の準備と開催では10年ほど時間がかかるので大会後の活動においてもその後続くものがあり時間と労力を積み上げてできているものなのだったと思った。そして、先生が紹介された日本人のおもてなし精神は同じ日本人として誇りに思うほどすごいものだと学んだ。そして、ボランティアの活躍を聞いて私も早く参加したいと思った。そして、大会後の価値観の共有について学び、これからのボランティア精神に役に立てたいと思った。そして、レガシーに価値は、その広がりよりもむしろ深さではないかという言葉を知り、学びとても心に残った。(長崎外国語大学・1年生)

◆レガシーという言葉を知ると私たちは終わった後のことを考えてしまうけど、レガシーには始まる前も含まれている。Before, During, After これを三つのレガシーと呼ぶ。私達自身のこととみると、海外留学などがある。準備できるのは今で、人生を豊かにするために、ポジティブな変化を与えられたらそれは私のレガシーになると学んだ。(神田外語大学・1年生)

◆この講義では、私は諦めない大切さを学んだと思います。徳増浩司さんは2003年からラグビーワールドカップを日本で開催するためにたくさんのお仕事をされたそうです。日本にとって、あまりメジャーではなかったスポーツをどう開催国になっていくか挫折の話、失敗の話もありましたが、やはり徳増浩司さんがこのことに関して一生懸命向き合ったお陰様でラグビーWC2019が開催できたと思います。そして、この大会は、日本の逆転優勝だけではなく世界に感動を与えました。スポーツは言語を超えて、世界の人々と共有できるものでもあることに気が付きました。そして、大会の背景が知れて良かったです。(名古屋外国語大学・1年生)

9/9(木)	①リオ五輪ボランティアにみるキャリア形成とは ②現地からみた国際貢献の働き
講師	<p>①Multilingual Club ファシリテーター 新条正恵</p> <p>②JICA海外協力隊(短期派遣)でアフリカ・ジンバブエ・中米・グアテマラに野球隊員として2年間活動。現在JICA東京職員。 佐久間大樹</p>

参加者課題「講義レポート」より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆ キャリア形成に必要な3つのことは勿論だが、「スポーツイベントは世界中のメディアから注目され、世界中のプロが集まる」という言葉が特に印象に残った。その言葉から、ロールモデルが身近にいるという期待と同時にそのような人々と一つのイベント・大会を成功させるために一緒に仕事をしていくという責任を持たなければならないと感じた。キャリア形成に必要なことの「行動する」ということはシンプルかもしれないが出来ていないことであるため、一時の恥で行動を恐れてしまったり、中途半端に行動をしたりするのはなく、自分のためにも勇気を持って行動してみるべきだと心から思った。また、その行動が人脈や正しい情報へと導いてくれると思う。

佐久間さんの講座では、外語大生として語学しか取り柄のない人とならないように「語学力×○○」という様に自分の語学力を何に生かすのか、また、何に掛け合わせると自分の強みになるのか、という話を聞き、自分には語学以外の教養が必要であると感じた。改めて自分が何のために言語を学んでいるのかを見つめ直し、自分の専門分野を見つけ出すことで社会で必要とされる人材となれると思うため、語学以外のことも積極的に学んでいきたい。(神田外語大学・2年生)

◆ 新条さんのお話は行動をしないと何も変わらない事を教えてくれました。・明確なビジョンを持つこと。・人脈と正しい情報を知る事。・行動すること。がキャリア形成に必要なことだとおっしゃっていました。私もその3つを意識しながら自分が今後どうしていきたいのか考えるともいいきっかけになりました。

佐久間さんのお話は海外協力隊に実際に行き国際貢献をなさっていたお話で、私はとても海外協力隊に興味があるので貴重なお話でした。その経験がまた新しいビジネスや経験に繋がっていて、そこでの人脈や交流は自分の将来にも繋がるのが沢山あるという事を学ぶ事が出来ました。貴重なお話ありがとうございました。(長崎外国語大学・1年生)

◆ 将来のキャリアに関して、考えるきっかけをいただくことができた講義でした。新条先生の講義からはキャリアについての考え方について学びました。私は今3年生ということで卒業後のキャリアについて考える機会が増え、時が経つにつれて早く決めれないと、具体的に自分は何がしたいのかなど少し焦っていたので、先生の具体的じゃなくてもいい、こんなことがやりたいということがあればよいという言葉が聞いて良かったです。またスポーツボランティアを通しての人脈が大切ということもとても勉強になったと思います。佐久間先生の講義では語学×○○ということで就職やこれからやりたいことを決めたと聞きました。将来やりたいことがもやもやしていたのですが、語学にはかかわっていたと思っていたので「かける」という発想で見つければいいのだとヒントをいただくことができました。将来の自分のキャリアについて考え直して夢に向かって小さなことから進んでいきたいと思っています。(関西外国語大学・3年生)

◆ 新条先生と佐久間先生の授業は、これからの将来のキャリア形成についてを深く考えるための機会にもなりました。キャリア形成に必要なこととして、どんな生き方や働き方をしたいか具体的な未来を想像する、世界にも繋がるくらいの人脈を得て、どんどん情報を得る、常にチャンスを掴むためにどんどん前のめりに行動するなど、これからの自分がすべき行動を改めて再認識しました。自分は、語学力とコミュニケーションを掛け合わせると自分の強みになると考えているので、それに合わせた行動をしっかりとしていこうと思います。(神田外語大学・1年生)

◆ 今まで到達したい目標ばかりを設定していたけれど、「ビジョン」について学び、「どんな生き方や働き方をしたいのか。」と考え、具体的な未来を想像するようになりました。それは、例えば「会社に入った後、何をするのか、または、何をしたいのか。」と考えることだと、改めて思いました。また、ゴールも大切だけれど、ビジョンを考えることも、大いに大切だと言うことをこの講義を通して、将来のことについての考え方が変わりました。(関西外国語大学・2年生)

9/9(木)	世界の英語とその文化
講師	神田外語大学 英米語学科教授 矢頭典枝

参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆外国語大学で英語を学ぶ中で様々な英語に触れる機会はこれまでも多くありました。しかし、この講義ほど具体的にそれらを分析したり違いについて考えたりすることはなく、「言語モジュール」という存在もそれまで全く知りませんでした。それぞれの国のネイティブが自国の英語で同じ場面を演じることで、語彙や発音などの違いが安易に理解できるのはもちろん、文化や有名なものなど「国そのもの」を学んでいる感じがしてとても新鮮でした。言語を学ぶことはその国の文化を学ぶことだと感じました。発音の仕方や独特な言い回しに関する注意書きがあったりと、このサイトだけで言語学習が完結してしまいそうなくらい充実しており、私が習得したいと思っていたアメリカ英語のみを学ぶ上でとても自然なフレーズが聞けるのでぜひ今後も活用したいと思いました。もっと早く出会いたかった教材であり、もっと早く受けたかったと感じた講義でした。(関西外国語大学・3年生)

◆アメリカ英語、イギリス英語の違いについては触れたことがありましたが、シンガポール英語やインド英語などにはあまり触れたことがなかったので新鮮でした。同じ英語を話しているつもりでも訛りやアクセントの違いがあるので、グローバル社会で活躍するためにはこのような変化や違いにも柔軟に対応して、理解する姿勢が大切だと感じました。(名古屋外国語大学・2年生)

◆私は英語を学ぶに当たって、どこの国の表現であるかをあまり意識したことがありませんでした。しかし、同じ英語といえども国によって表現が全く異なることもあったので、通訳や人と関わる仕事をする際だけでなく、留学に行く際にも失礼のないよう必ず勉強し、意識すべきだと思いました。英語モジュールをたくさん活用させていただきたいと思います。(関西外国語大学・1年生)

◆英語モジュールを使用させていただいたことがあったので、それを開発された方が矢頭先生であると知りとても光栄でした。英語と聞くと英語を話す地域の英語はすべて同じと思うこともありますが、実は発音や表現法、単語、つづりなどが変わってくるのが興味深く思いました。それらを、動画を通して比較しながら一気に学ぶことができるので、これからの英語学習に沢山役立てて知識を増やしていきたいです。私は音声を聞いたり発音したりして言語を学ぶ方が書いて読むより好きだからこそ、シャドーイングと一緒にい何度も繰り返して、その国々の特徴を学んでいこうと思います。そして、留学や旅行がコロナなどに影響されずスムーズにどの国へも行けるようになった際に、このモジュールを通して学んだことを活かして現地の方とお話してみたいです。(京都外国語大学・2年生)

◆偶然にも、英語音声学という授業で英語モジュールを紹介されていたので、授業で間違いやすい発音を実際に音にしてみる時など授業の理解がしやすかったです。しかし、アメリカとイギリスの英語しか聞いたことがなかったので、カナダ英語やニュージーランド英語などがとても新鮮でした。また、私は神田外語大学のものしか使ったことがなかったので東京外国語大学の方には英語以外の音声もあることを初めて知り、今度第二言語のものを使ってみようと思いました。(神田外語大学・2年生)

◆アメリカ英語とイギリス英語が身近なため、インド英語や東南アジア、北欧の英語を学ぶことが出来てとても楽しかったです。多くの日本人が考える英語は、アメリカ英語かイギリス英語だと思いますが、言語はただのツールにしか過ぎないということをもっと感じて欲しいなと思いました。それぞれの国の言語の特徴が影響して出来てそれぞれの英語でも、立派な言葉だと思います。流暢に話せなくても、伝えたいことを必死で伝えようとし、それが結果伝わったのであれば十分で、完璧でなくていいという認識がより日本に伝われば、英語に対する特別視も緩和されるのではないかと感じました。個人的には、こういった言語の違いを学ぶのはとても面白いので満足出来る時間でした。(関西外国語大学・4年生)

◆矢頭先生の授業を受けて、それぞれの国の発音の仕方の特徴を理解することができました。同じ英語でも、国によってこんなにも発音の仕方が違うのかと改めて実感することができました。実際に動画を使ってアメリカ英語、イギリス英語などそれぞれの国の英語の発音の違いなどを見ることができたので、とても理解しやすく楽しかったです。(関西外国語大学・2年生)

9/9(木)	異文化コミュニケーションとおもてなし
講師	神田外語大学キャリア教育センター客員教授 筑波大学客員教授 江上いずみ

参加者課題『講義レポート』より ※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆講義では身だしなみや表情等と目に見えるものについて学ぶことが出来ました。おもてなし大国の日本では人に様々なことをしてあげるところを見かけることが多いです。その際せっかく良い事しているのに表情が暗かったり、せっかく良い事を言っているのに身だしなみが良くなかったりするとどうしても印象が下がってしまいます。これはメラビアン^①の法則^②といって第一印象は会った時の印象、つまり視覚の印象が半分を占めています。それに加えて言葉遣いも気をつけねばなりません。目上の人に対して使用して良い言葉と失礼にあたる言葉が存在します。私たちはそんな言葉を間違えて使用することがあります。知らずに使用してしまっていた言葉がこの講義で知ることが出来ました。これまでに学んできた知識や知恵を沢山得て様々な場所で披露するのも良いですが、見た目や言葉遣いなど基礎的な部分を磨くのも大切だと考えました。これを通してもっと気を配っていきたくです。現在コロナの影響でマスクを着用しているため目と声が重要になっていきます。そこでこれから相手の目をきちんと見ることや声を張る、話す際には言葉に気を付けて話すことを意識するなど、普段から出来ることを意識的に行っていこうと思いました。(神田外語大学・2年生)
- ◆おもてなしとは、表裏のない心を以って行為を成すことであり、それはサービスといった主従関係を前提とするものではなく、相手を思う一心でなされる対応のことである。異文化に接する際には、相手の文化をある程度把握し知識をつけておくことと同時に自国の文化・伝統をしっかりと理解し説明できることが重要になる。しかし、おもてなしはあくまでも相手への気遣いであり、こちらの押し付けでないことを肝に銘じる必要がある。自分にとっての裁量が相手にとっての迷惑になる可能性を十分に理解したうえで行動することがおもてなしの第一歩となる。(神戸市外国語大学・1年生)
- ◆おもてなし(お・もてなし)は、心を以って行為を成すことであり、(表なし)は、表面的ではなく本心ですることである。大切な人をお迎えするときの気持ちや相手に喜んでもらうために心を尽くすことは大切である。そして、第一印象は、見た目や会った時の印象が左右する。なので表情や服装、あいさつなどはとても大切なのだと思った。(関西外国語大学・2年生)
- ◆人は聴覚と視覚の印象だけで93%を占めており、第一印象を覆すためには時間がかかるといって驚いた。また、自分が今まで正しいと思っていた日本語や行動が間違っていたということに気づくことができた。面接時の受け答えの仕方や海外と日本の握手の仕方の違いなども知ることができたので忘れないようにしていきたいと思った。(長崎外国語大学・1年生)
- ◆私は今まで日本のマナーやおもてなしがなぜこんなにも海外から称賛されているのか少し疑問に思っていた部分がありました。日本人の自分には当たり前でどこが海外と違ってよいところなのかわかっていませんでした。ですが、今回の講義でおもてなしの中にある日本人らしさや、サービスするにあたって気を付けているところやその意味を知ることができました。自分の私生活やアルバイトでも生かせる工夫も知ることができたので早速実践して、海外に行っても日本人として誇りを持てるような気づき、おもてなしをいまからしていきたいと思いました。特に視覚障がい者には「笑顔」ではなく「笑声」が大事とおっしゃっていたことはマスクをする今の生活に一番生かせることだと思いました。(名古屋外国語大学・1年生)
- ◆元キャビンアテンダントさんということもあり、江上先生が講義中にお話してくださったおもてなしや第一印象を高めるコツは非常にわかりやすく、説得力があった。私はホスピタリティー^③の分野にも興味を持っていたが、「おもてなし」という言葉の意味を今までなんとなくでしか理解していなかった。なので、江上先生のご講義を通して、おもてなしとは裏表のない心で見返りを求めない対応をすることだということを知り、とても勉強になった。第一印象を高めるコツについては、オンライン面接が多い現在の状況下においても役立つことができるポイントがたくさんあった。マスクが必須の現在では表情での伝達は限られてしまうため、「笑声」が重要になるという点には驚いた。これから様々な面接を経験することになると思うので、江上先生に教えていただいたこれらのことをぜひ活用できたらと思う。そして、これからの将来どのような職業についても、おもてなしの精神を持って見返りを求めない心からの対応ができる人になりたいと強く思う。(関西外国語大学・1年生)

9/9(木)	グローバル化と音楽
講師	米国Berklee College of Music卒業、2005年～2008年 島村楽器ミュージックスクールギター講師 吉原 聡

参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆有料ライブのように素晴らしい演奏と、音楽のすばらしさを体感することができました。それと同時に、言語と音楽の間に音というところが共通しており、なにか言語を学ぶ上で音楽や音というものが何か重要なファクターになり得るのだと自分の中で新しい発見をすることができたのでとても良かったです。(関西外国語大学・3年生)
- ◆文化によって色々な音階があって面白いなと思いました。音だけでその国や文化のイメージが浮かんできて、音楽と文化は共に在るんだなと感じました。私は10年間吹奏楽部で音楽と関わり、海外で音楽について学ぶことにも興味があったのでとても惹かれる内容でした。言葉は伝わらないこともあるけど、音楽で色々な気持ちを表現できると言うことを改めて感じました。海外の色々な音楽についてもっと学びたいなと思いました。(長崎外国語大学・1年生)
- ◆音楽の道には無縁の私も音楽の楽しさに気づいた1時間でした。どんな分野にも国際的な共通点があって、どんな分野でも国境を越えて楽しむ事ができるという事を実感しました。本当に好きな事を将来に生かすことは夢の夢だと思っていましたが、挑戦しようという気にさせてもらいました。英語はどんなところにも繋がってくる、だからこそ、もう少し英語に力を入れて、自分の描いている夢に近づきたいなと思いました。とても愉快的な音楽と共に楽しい講演ありがとうございました。(名古屋外国語大学・1年生)
- ◆音楽というアプローチから、世界の人々を理解する、面白い授業であったと思います。吉原さんはバンジョーという楽器を持ってらっしゃいました。実際にピアノとバンジョーを鳴らし、音で講義して下さるので、耳も楽しめる授業であったと思います。日本的短音階や、琉球音階など、各地域で発達した音階が紹介され、人々を繋ぐ音楽は、同時に地域の気候風土にも根ざしているのではないかと考えました。また、どのようにバッハの頃から音楽が発達していったのか、についての歴史的講義も含まれており、世界史に興味のある私にとっても面白い講義でした。(神戸市外国語大学・2年生)
- ◆実際に先生が音楽を奏でながら授業をして下さったことがとても面白かったです。私は音楽や楽譜には詳しくないですが先生が頭を使って教えていただいたのでとてもわかりやすかったです。質問形式で話して下さることも多くてクイズのようでとても楽しい時間でした。音階に関してもあまり知らなかったのですが、2音抜く場所が違うだけで音の印象がとても違うところが面白かったです。(名古屋外国語大学・3年生)
- ◆この講義を聞いて、最初に聞いたときに「グローバル」と「音楽」のなにも共通項があるのかすぐに理解することはできなかつた。しかし実際に吉原さんの話を聞いていくうちに、5音階というものの凄さと、長調と短調によってこんなにも聞こえ方、感じ方が違うのだと知ってとても面白かった。そして音楽は癒しだと答えた私にとって、音楽というものはコミュニケーションであり自己表現である。という考えを聞いたときにとても新鮮な考えであると感じたのと同時に、確かに音楽を通して世界中の人が感動したり影響を受けているから、これは音楽を通して人々がコミュニケーションをとっているのかと発見することができた。(神田外語大学・1年生)
- ◆英語と音楽の共通点が「共通語のようなもの」「コミュニケーション手段」ということに今まで気づけなかつた。私の得意な事と言えば、英語とピアノという全く異なる分野である思っていたがこの二つに共通点を見出すことができ良い機会になった。これがこの講義の最大の発見だった。また、先生が様々な文化の音階について説明して下さる中でもっと音楽の理論的な部分を勉強しておくべきだったと思った。文化によって音階などの特徴が異なっていることは実に興味深く、他の文化圏と比較することによって自国の文化に対する思いや理解が深まると感じた。(神戸市外国語大学・3年生)

講師

神田外語大学国際コミュニケーション学科長・教授
小坂 貴志

参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆前半で通訳における同時通訳と逐次通訳の2つの種類とその方法などの内容を学び、後半ではブレイクアウトルームに分かれて、実際に逐次通訳に近づくアクティビティを大学や学年バラバラになって行った。特に後半のアクティビティでは、少し恥ずかしさもあったが、今回のアクティビティを通しての交流を楽しむ気持ちで取り組もうと、自ら積極的に挨拶したり話をする事ができた。また、他の人が日本語で話した内容を英語に変換して言うという作業を実際にやったことで、つい説明が日本語よりもアバウトになってしまったり言いたいことが出てこなかったり、相手の言いたいこととあっているのか不安になったり様々なことを感じ、通訳の難しさを学ぶことができた。(神田外語大学・1年生)

◆通訳というもの、翻訳というものは実際にやってみようとなると英語の文法が不安な部分が見つかったり、この単語は英語ではなんというのだろうなどということが発生し、非常に難しかった。英語での表現の仕方をもっと増やすべく勉強する必要があると思い、同様にもっと単語を勉強しようと思った。(名古屋外国語大学・3年生)

◆この講義では、通訳とはなにか、どのように進めていくかを実践的に学ぶことができる貴重な機会であった。通訳とは、自分が主となり会話をするとは全くちがうため、異なる言語でメモをとりながら通訳内容を正確に記憶する必要がある。これを実際に他大学のひとと自己紹介を行いながら実践してみたところ、メモのスピードと適したした翻訳に変換するのに要する時間が長かかってしまい、通訳の難しさを実感した。(神田外語大学・1年生)

◆ブレイクアウトルームで様々な大学のひとと交流できて楽しかったです。実際に自己紹介を通して通訳の練習も行い、今回は自己紹介という簡単なものだったので楽しかったのですが、本当の通訳ではもっと難しい内容なのでとても大変で難しい仕事だと感じました。英単語を沢山知っていたり、英語力も大切だったりしますが、日本語力もとても大事だと実感しました。通訳ボランティアに沢山参加したいので、もっと練習してみたいと思いました。(長崎外国語大学・3年生)

◆通訳には同時通訳と逐次通訳の2種類があることを知った。講義で行ったアクティビティで、相手の自己紹介を日本語でメモするのは簡単であったが英語でメモするとなると即座に英語が出て来なくて手間取ってしまった。相手が言ったことを同じ意味の文章で伝えるためには相当な単語力が必要だと思った。オンラインではあったが他の外国語大学の学生と少し交流ができて楽しかった。(長崎外国語大学・1年生)

◆他の大学とブレイクアウトセッションで関わることができてとても楽しかったです。今回は自己紹介を英語に訳してみるという活動だったけどもっと本格的になると、日本語でも話を簡潔に整理することが難しいときがあるので訓練はとても大切だと感じた。これから秋学期が始まって学生同士や先生と関わるので、時間がある何気ない会話をしているときに今回ブレイクアウトルームで行ったように会話を通訳してみることをゲーム感覚で友達や先生とやってみようと思いました。(長崎外国語大学・3年生)

◆講義の中で特に印象に残った言葉は、ただ訳す言葉を待つのではなく、関わっている人間として、積極的に行動する、というものだ。確かに何か役割を与えられると、自分の仕事にばかり目が向いて、何かに気づいたり、また手が空いても自分の仕事ではないから、とあまり周囲を見たり、ということがないように思う。自分が何をできるかを考え行動することで、自分が物事に対して貢献できることへの達成感が得られると共に、周囲の作業も進んで、周りより良い関係を築くことにも繋がる。何かイベントや仕事で役割がある時でも、あくまでも自分はそのイベントや仕事に参加している一員であり、その目的はそれらを成功させることだ、ということを常に意識して行動したい。(神田外語大学・1年生)

9/10(金)	プロ通訳としての仕事や必要なスキル
講師	NHK、CNNなどで活躍 日英通訳・翻訳・ボイスオーバー 中曽根 俊

参加者課題『講義レポート』より ※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆スポーツ翻訳として実際に活動している方のお話を聴く機会はあまりないのでとても有意義な時間を過ごすことができた。スポーツ翻訳としての心がけとして中曽根先生がおっしゃっていたことは学生時代に取り組んでいること(単語帳づくり、語句調べなど)と同じだったので、コツコツと英語を学ぶという姿勢を大人になっても(職業が何であれ)忘れないでいたいと感じた。(名古屋外国語大学・2年生)
- ◆中曽根俊先生は野球とテニスを担当されたことがありました。プロ通訳としてやっていくためには、自分専用の単語帳を作り、的確な情報収集、競技特有の表現を知ること。また、調べることを怠らず、常に好奇心を持ち有用な情報を集めること。さらに、日本語の再確認で正しい日本語を使えているか。最後に、単語の先にある文化・習慣を知ることでした。5Pとは、Perfect Preparation Prevents Poor Performance です。3Rとは、Respect : 敬意 Responsibility : 責任 Realization : 認識です。どれも通訳になる人だけが必要なわけではなく、私のような英語を学びコミュニケーションが大切になってくる人には必要な要素だと思いました。最も重要なのは、伝えた=伝わったということではないということです。相手が理解してくれなければ、通訳の意味がありません。遠回りしてでも、最終的にゴールに着けばよいのだから、理解してもらうことが大切だと教えていただきました。(関西外国語大学・1年生)
- ◆私は今回の授業で初めて通訳のプロの方からお話を聞けてとても貴重な情報や経験をきくことができたので、これからのスキルアップや人生の選択で役に立てていこうと思った。また、私はこれまで英語がペラペラで何でもわかる人しか通訳という仕事に就くことができなと思っていただけに通訳の方でさえわからない単語を調べ日々勉強していると聞くと驚いた。通訳は人との会話を挟むので秘密を握りやすいし、通訳の仕事の責任として家族にさえも教えてはならないと知り、仕事をする上でそういった信頼も必要と知り、私が思っていたイメージとは大きく異なっていたので奥が深い職業だと思った。そして、アメリカの大学を卒業している方でさえ発音の違いで分からないことがあると知り、完璧にすべての英語ができてその職業についている人ばかりではないと学んだ。今回の授業の先生はスポーツの分野の通訳の方だが、専門分野の英語の知識も必要だと学んだ。(長崎外国語大学・1年生)
- ◆通訳ボランティアでもプロ意識を忘れてはいけない。好奇心を持つことや事前に準備をすることを忘れてはいけない。3RのRespect, Responsibility, Realization. 自分が今存在しているのは家族や友達、支えてくれている人たちのおかげであり、常に感謝の気持ちを持つこと。責任を持つこと。自分の能力を知り立場を理解すること。そして、十分な下調べをして仕事を全うし、好きを楽しむ。これが良い循環であると感じた。(関西外国語大学・1年生)
- ◆語学を学んでいくために単語を知らないとはじまりません。この講義で単語の取得方法を知れて良かったです。エクセルを利用して学習をしているなんて驚きです。人によって勉強方法は異なる地思います。まずは、マネからはいると思うのでやってみようと思いました。そして、フリーランスの大変さも学びました。専属であれば、そのお願いされた案件を仕事にすればよろしいのですが、フリーランスは自分の実践、人脈で仕事を獲得していかないとはいけません。それが、良いのか悪いのかは分かりませんが、初めから最後までやり遂げられる、達成感はとても大きいのだと思いました。人それぞれの、仕事のあり方を知れて良かったとおもいます。(名古屋外国語大学・1年生)
- ◆中曽根さんの授業では、分野別の専門知識を蓄えることの大切さを学びました。スポーツの中でも数えきれないほどの種類が存在しており、それぞれの競技でルールや使う用語も違います。それを日本語で理解するとともに、英語で訳せるようにあらかじめ念入りの準備しておくことが必要だと学びました。どの分野の専門知識も短時間で覚えられるものではないと思うので、日頃から少しずつでも知識を貯めていきたいと思います。(名古屋外国語大学・1年生)

9/10(金)	医療通訳としての専門知識
講師	南新宿整形外科 伊藤博子

参加者課題『講義レポート』より ※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆医療現場では理解した内容に対して忠実に通訳するためにも、医療に関する知識が必要であることを学ぶと同時に、通訳者としてのマナーを学んだ。忘れてしまいがちであるが、通訳はあくまでも医者と患者との間で行われる会話のサポートをするだけであることであったり、目を伏せて通訳したり一人称で話したりするといった他者から言われないと気が付かないようなマナーを知ることができたため、非常に勉強になった。特に患者が不安を抱えていることが多いであろう医療現場での通訳は、正確に伝えられなかった場合に不安要素を増やしてしまう可能性もあるため、医療現場で通訳をする際には単語のみではなく医療知識を理解しておく準備が必要であることを学んだ。(神田外語大学・2年生)
- ◆ボランティアの中にも色々な種類や役割がありなかでも医療通訳はとても難しいと感じました。医療用語を覚えて、実際に現場で使うというのはとても難しいと思いました。医療の現場は一瞬、一瞬がとても大事になってくるので事前勉強も必要になるし沢山の知識と経験が必要になると感じました。難しい事ではありますが医療通訳も挑戦してみたいと思いました。(長崎外国語大学・1年生)
- ◆恥ずかしながら、医療通訳という仕事を今回はじめて知りました。そしてとても重要な仕事であることが分かりました。具体的に診察の際にどのような語彙を使って通訳するのかや、通訳者としてどのように動くのかを学ぶことができました。「痛み」を聞く時にもいくつかの言い方を使い分けるというのも学びました。医療通訳は黒子のような役割という例えがえもわかりやすかったです。普段私たちが日本語で言うニュアンスのようなものもしっかり担当の先生に伝えることによって適切な治療ができるということを知れて良かったです。(関西外国語大学・3年生)
- ◆この授業は、プロ通訳に必要なものを直接プロ通訳の方からお話を聞ける貴重な授業でした。知らない言葉や表現は必ず出てくるから、そこで単語帳を作る、常に好奇心を持って、調べることを怠らない、単語や表現の奥にある文化や習慣を知る、など、どれも必要なスキルだし、準備の整え方次第で通訳のパフォーマンスが変わるのに納得しました。また、信頼される通訳になるために、十分な下調べをする、時間を厳守する、楽しんで仕事をするのも重要だと感じました。(神田外語大学・1年生)
- ◆普段他の国で行われている日本の実況を聞くのと通訳の人が話すのを聞くことはありません。テレビで通訳の人をフォーカスし通訳の言葉を1字1句文字に起こして見られることもありません。そんな影で活躍している通訳者がどのように活動しているかどのような準備をしているかわかったことを述べたいと思います。中曽根さんが行っている通訳はスポーツ、主に野球についての通訳を行っています。野球のルールは特に複雑であり覚えるのが難しくそれを英語に変換するというのもっと大変です。中曽根さんは球団の監督に通訳者としてお仕事をすることがあります。その際にチームメンバー一人一人の体調を知っておく必要がありそれを英語で監督に伝えるという役目がありました。これは医療通訳の講義であったものとはほぼ同じような内容で病名や治療法を英語で覚えてきちんと伝えなければいけません。それに自分でプレイヤーに治療をしたりと行うことがとても多いと感じました。ですが中曽根さんは大変だけど好きだから、もっと知りたいと思い勉強に励みました。それはなぜかという知識を増やしていけば誰かがその分喜んでくれると仰っていました。このことを聞いて私自身もやりたいことを見つけて自分のためだけでなく誰かのために尽くしていける人になろうと思いました。(神田外語大学・2年生)
- ◆通訳の仕事について詳しく学んで、とても興味深かったです。「ら抜き言葉」は、日々気をつけようとしているのですが、たまにふとしたときに間違えて話しているときもあると思っていましたが、学び、「～しよう」と動詞の最後に入れるだけで「ら」を入れるか入れないかがはっきりと分かる知識を得たことで、今までよりも間違っているのか、間違っていないのかがはっきりと分かるようになったのでとても良い学びとなりました。単語帳をつくることを怠らずに続けて、語彙を多くしようと改めてこの講義を通して思ったことの一つです。通訳は伝えただけではだめだと言うことも改めて思いました。それは、「相手が分かりやすいように伝える」、これが「伝わった」となると学んで、伝えるだけで満足はしてはだめだ、伝わったことで、通訳ということだと考えるようになり、学ぶ前とは、考え方が変わりました。また、失敗を恐れずに挑戦していきたいと思うようになった、講義でした。(関西外国語大学・2年生)
- ◆通訳をする上で最も大事になるものが5Pと3Rの精神だ。5PとはPerfect Preparation Prevents Poor Performanceを指す。通訳では伝達を正確に行うことが何より重要になる。しかし相手の土俵での会話を理解できなければそれが達成されない。これを防ぐためには、相手の土俵(専門)に関する知識を十分に頭に入れるかまとめ、ある程度の会話についていけるようにすることが前提としてある。3RとはRespect・Responsibility・Realizationを指す。通訳の仕事では他人に知られてはならない秘密を知る機会がどうしてもある。信頼を得ていないとそのような仕事を任せてもらえないだろう。またそうでなくとも、社会的な模範行動を心掛けて信頼を得ていくことは一人の社会人として必要な行動だ。(神戸市外国語大学・1年生)

9/10(金)	「人生を変えるのは自分自身」～パラリンピアンから学ぶ「レジリエンス」～
講師	2020東京パラリンピック出場 パラトライアスロン6位入賞 秦 由佳子

参加者課題『講義レポート』より ※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆秦選手の話聞いて、秦選手の行動力の凄さに驚いた。また、海外の人々はリスクを恐れるよりもどうすれば人生を楽しめるかを考えているという言葉がとても印象に残っている。私は、いつもリスクを考えて一歩を踏み出せずにいたのでこれから一歩踏み出せずにいるときはこの言葉を思い出したいと思う。また、今まで当たり前だったことが幸せだということに気づけることもまた幸せなことだという言葉も印象に残っている。これからは、当たり前のことにも感謝しながら生きていける人になりたいと思った。(長崎外国語大学・1年生)

◆秦さんのお話を聞いたことはとても貴重な機会になりました。秦さんが脚を切断されたお話をされた時は思わず涙が出てしまいました。そのような経験をされた秦さんは計り知れないほど辛かったと思います。それでも海外の選手の雑誌の表紙を目にし、志が変化したお話を聞いていると、何かひとつ自分の好きなことを見つけることができたらこんなにも幸せなんだと実感しました。もし私の場合であると考えたら、どのように自分を受け入れられるか想像もつきません。秦さんの姿に私が勇気と感動をもらいました。何事も決断していくのは自分自身だと当たり前のことながら思いました。これからもその時にあった決断を自分自身でしていきたいです。(長崎外国語大学・1年生)

◆自分に自信を持てることをやってみるという言葉、私にとってなにかやりたかったことを今から始めるには遅くないのだと励まされた気がしました。リスタートという言葉が合っているのか分かりませんが、年を重ねたからといって新たな夢を目指すことが無謀なことというよりむしろ素敵なことなのではないかと考えました。また自分より深い絶望を経験した人がいることを知ると逆にどうしても自分なんか落ち込んではいけなそう思ってしまうのですが、一生懸命生きようとしてる相手に失礼に当たると感じました。比べる必要は無い、自分の意思で生きていけばいいのだということ学びました。(名古屋外国語大学・2年生)

◆まず、このような貴重な機会を与えてくださり本当にありがとうございました。改めまして、オンラインではごさいましたが秦さんのお話を伺うことができて幸せでした。なぜなら、秦さんの歩んできた人生をスライドやパラリンピックの動画を見させていただいていくと共に、自然と涙が止まらなかったからです。本当に、秦さんはカッコ良い方であり、私も秦さんのように逆境を乗り越えるような強さや優しさや適応力を兼ねそろえた女性になれるように日々精進していきたいです。

まだ非常にお若い中学1年生の頃に骨肉腫になられた秦さんなのに、初めに自分の気持ちよりもご両親に泣き止んで欲しいという想いから脚を切断するという選択を下したことに素敵だと思いました。その後、その恥ずかしさから学校へ行くことや体操服を着ることが辛いと思うような生活をしたとおっしゃっていました。しかし、修学旅行の代わりに海外へ旅行へ行った際には、現地での心の広さや気にしていた脚にも違和感なく接してくれたことで気が楽になりアメリカへ留学したそうです。これは、多様性の違いに感じました。だからこそ、もし何か不自由な方がいらっやったり、困っている方がいらっやいたら、優しい眼差しで、何か役に立てることを考え、お声をかけたいと思いました。秦さんの日本人による目線から自信を持つために水泳、そしてトライアスロンへの挑戦を決めたという行動、そのための勇気は本当に素敵でかっこよく、私も、くよくよしておらずに勇気を持って行動に移そうと強く感じました。加えて、秦さんがおっしゃっていた「自分はどう生きたいか。自分自身で人生は大きく変わる。」というお言葉が心に響きました。このお言葉を胸に、今日から一歩ずつ前へ踏み出し、困難にぶつかることを良いように捉え、自分や誰かのため、未来への可能性のために周りの人やその状況に感謝しながら過ごしていきます。その際に、自分が変わる努力、その状況を最大限に活かす努力、何らかの努力と勇気を持ち、かっこよく強く生きていきます。そうしていくことで、秦さんのように沢山の楽しさを見出せる人に、また、広い視野と優しさを持った国際的に活躍できる人になりたいです。(京都外国語大学・2年生)

◆秦選手の講演は、とても心に響く講演でした。秦さんの諦めない姿勢、前向きな姿勢にとても感動しました。私は、辛いことがあったり、嫌なことがあったら諦めてしまうことがあります。でも、今回の秦さんの講演を聞いて、辛いこと、嫌なことがあってもすぐに諦めるのではなく最後まで頑張ってみること、前に向いて突き進んで行くことの大切さを学ぶことができました。これからは、すぐに諦めるのではなく最後まで全力で挑戦していきたいです。(関西外国語大学・2年生)

5. セミナーの様子(写真)



▲宮内学長のご挨拶から始まりました。



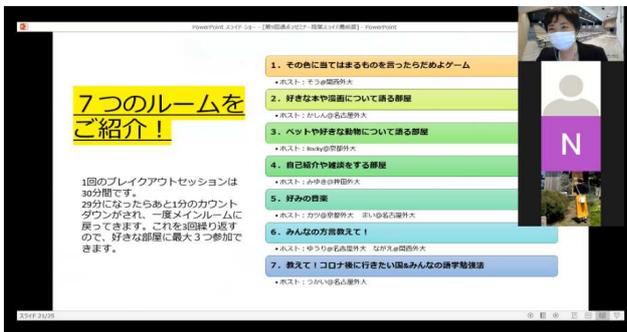
▲世界の食事規定を意識するようになったと、受講生からコメント続出の講義でした。



▲日頃のマナーを見直す機会となり、中にはCAを目指している受講生もいました。



▲チャットを使いながら受講生と交流をし、オンラインで受講していることを忘れてしまう講義でした。



▲2日目の講義終了後、学生主体の企画のもとにオンライン交流会をおこないました。



▲思わず涙があふれてしまった受講生が多く、人生観を学びました。



▲オンライン開催2回目となった2021年は、総勢149名の学生が全国の外大から参加しました。